


生まれてくる赤ちゃんのために 防ごう! 大人の風疹



平成も残すところあと1ヶ月です 

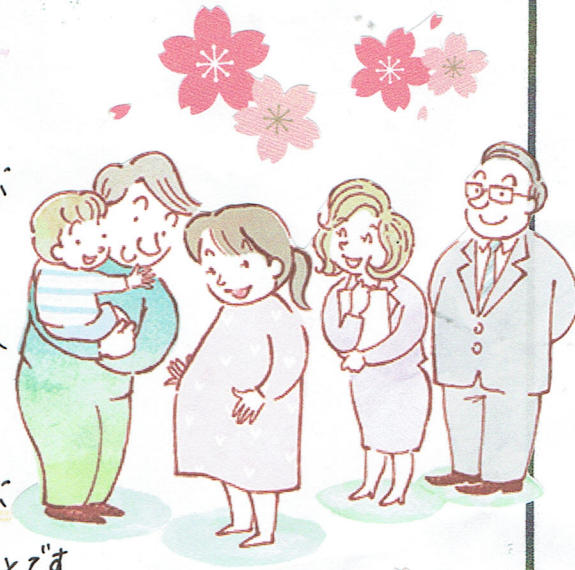
近年流行している風疹ですが、

インフルエンザ以上に強い感染力があります。

今月は、これから妊娠を希望する女性やその同居

ご家族や職場の方々へ、大人の風疹予防について
お知らせします☆

風疹は、風疹ウイルスに感染することによって、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどが生じる病気です。風疹にかかってもほとんどの人が軽症のうちに治まりますが、最も心配なのは妊娠中の女性が感染すると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風疹症候群(CRS)を発症するリスクがあることです。



先天性風疹症候群とは?

先天性の眼の病気
・白内障
・網膜症
・緑内障 など

先天性の耳の病気
・難聴

先天性の心臓の病気
・動脈管開存症 など



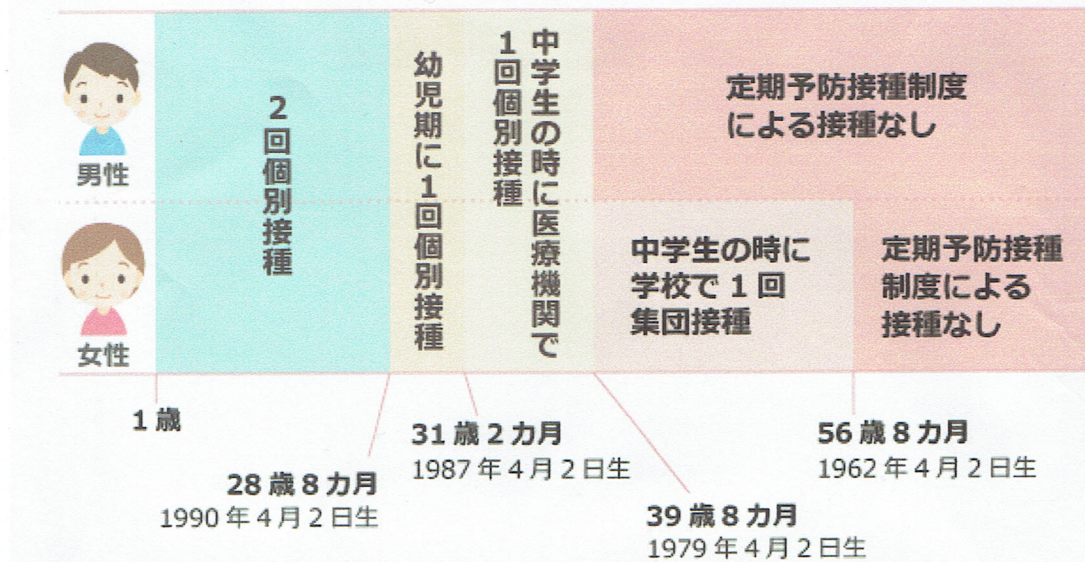
低出生体重 (小さく生まれる)
血小板減少性紫斑病 など

妊娠初期(3ヶ月以内)に風疹ウイルスに感染すると、胎児にも感染して出生児にCRSと総称される障害を引き起こす可能性があります。

風疹の流行年とCRSの多い年度は完全に一致することが分かっています!

ワクチンの定期接種の状況

2018年12月1日時点の制度と年齢の関係



出典：国立感染症研究所「風疹流行に関する緊急情報」

風疹ワクチンは、2回の接種でより高い予防効果を得ることができます。

まず抗体検査を受けた後、抗体保有率が少ない場合にはワクチン接種することが推奨されています。また、2022年までの約3年間、これまでワクチンの定期接種が一度もなかった39歳～56歳男性の抗体検査とワクチン接種費用が原則無料になります!!



1979年(昭和54年)4月2日～1990年(平成2年)4月1日に生まれた方は接種率が低くなっています。

妊娠中は接種ができません! 妊娠を希望する女性や、そのご家族は、早めに接種しておきましょう。

赤ちゃんを守るためにも、なるべく多くの方が接種を受けて妊婦への感染を防ぎましょう! ✨

